

平成26年度第4回鳥取県和牛産肉能力検定委員会概要

日時 平成27年1月22日(木)午後1時30分～午後4時00分
場所 東伯郡琴浦町松谷606 鳥取県畜産試験場
出席者 河本委員、相見委員、長谷川委員、門木委員、尾古委員、田中委員、天野委員、
木嶋委員、宮崎委員、松島委員、山本委員、小西委員、谷口委員、中山委員
西部農協 井澤氏
畜産課 野儀係長
事務局 畜試 岡垣場長、田淵室長、小江研究員

内容

1 協議事項

議題1 現場後代検定に伴う「白鵬85の3」の選抜・保留について
→「白鵬85の3」を現場後代検定合格とする。

説明等

- ・平成22年1月3月生。血統は「勝忠平ー白清85の3ー平茂勝」。
- ・琴浦町産4産目
- ・直接検定 点数85.5 発育+1.3 σ 、DG1.35。
- ・母牛「みどり」の産子成績は「百合茂」「百合茂」「勝忠平」「百合茂」「平茂晴」の雌、雌、去勢、去勢、去勢で枝肉重量476.2kg、546.6kg、522.3kg、541.7kg、466.4kg、ロース芯面積72cm²、83cm²、72cm²、70cm²、67cm²、BMS No.11、11、12、11、11。
- ・現場後代検定20頭の成績。枝肉重量497.4kg、ロース芯面積72.2cm²、バラ厚8.9cm、皮下脂肪3.1cm、歩留まり75.8%、BMSNo.9.6。
- ・光ファイバによるオレイン酸割合は53.2であり、県内の平均レベル。
- ・現場後代検定合格種雄牛の肥育成績比較では、枝肉重量に関しては「百合白清2」が優れているが、あとの項目については「百合白清2」を超える成績。
- ・種雄牛の脂肪交雑の予測育種価では「白鵬85の3」より「百合白清2」の方がよい結果だが、この2頭が突出した数字となっている。
- ・枝肉写真をスライドで提示。「百合白清2」と比較して、もも抜け、カブリ、広背筋のサシが弱い。皮下脂肪も厚く、色も若干濃い。子牛の大きさがばらつく。小さい子牛は見栄えをよくするため、脂肪を付けられ、せりに出る可能性が強く、結果として、肥育牛の成績も筋間脂肪の厚いものになってしまう。

意見等

- BMS に関しては文句なし。ロース切開前の2分体の評価が良くないのに、ロースにはサシが入っているというのが多かった。「百合白清2」の場合は、2分体見た時に5等級だというのがはっきり分かるようなもも抜けや周囲筋のサシが入っていた。この牛に関しては、あまり2分体が良くなって、ただロースにはサシが入っているので肉屋さんのにはちょっとどうなのかなといった印象。脂質は悪くないが、「百合白清2」と比較すると良くない。全部が悪いわけではないので使い方だと思うが、肉側の立場からいうと、「百

- 合白清2」の方が良い。ただ123 cm²の牛の部分肉をみたが、この牛はカブリも、ものすごくて見世物にはすごい良い。ももにもこれ以上サシが入るのかというぐらい入っていた。こういう牛もできるので一概にはもも抜けが悪いというわけではないと思うが、「百合白清2」に比べれば落ちるかなという印象。ただ肉にした場合と繁殖にした場合は別物。他の種雄牛に比べるとかなり良いので、個人的には文句なしだと思う。
- 絶対に残さないといけないと思う。心配なのは精液を横流しする悪いことをするものが出てくるので精液の管理をしっかりしてもらいたいことだと思う。
 - 子牛が小さいという話があったが、交配において良いかけ合わせの情報があれば教えてほしい。
 - 子牛せりデータでは、母の登録点数で見ると、母が小さいと小さく生まれるという傾向はある。血統的なものは頭数も少ないのではっきりしたことは申し上げられない。
 - 但馬系につけると小さい。でもこれだけ枝肉重量があれば良い。
 - 肥育した体型としては抜群ではない。でもサシは入る。体型がきれいだから太りきらない。若干ももの張りが弱いような気がする。
 - 後代検定牛の肥育の途中の牛を見た時に「百合白清2」に比べると体型も背もしっかりしており、肩まわりもきれいさがあつた。尻の幅であつたり、部分部分の大きさ、長さという「百合白清2」の方が伸びがあつたり、幅があつたりという印象がある。体型は、かけ合わせでカバーできると思う。
 - 当然残すべきだと思う。県から700万の予算計上ということですが、その用途はどんなものか。
 - セリで「百合白清2」や「白鵬85の3」の子牛を導入した場合に、能力の高いという条件はあるが、繁殖雌牛用として導入した場合は購入価格から平均価格を引いた部分の3分の2を、肥育用は購入価格から平均価格を引いた部分の2分の1を補助するという内容。平成27年1月から事業を始めて来年度も継続してやっていくという計画。
 - 700万は何頭分くらいになるのか。少ないような感じが。
 - 平成27年1月から3月までの分なので多いと思う。
 - 「白鵬85の3」に比べて「百合白清2」の方がもの食いのよい顔をしていた。「百合白清2」よりもちょっと神経質であつたというふうに思うが、それなりに大きくなる。肥育成績もとても良かったので安心したが、雌牛を繁殖に残す際にはどんな牛になるのかなというのが楽しみ。今、生まれている牛から残していければいいと思う。自家産になると補助金はでないか。
 - 今は出ない。状況を見ながら検討はしたい。
 - 現場ではものすごい勢いで交配進んでいる。4、5月くらいから生まれてくるのでとても楽しみ。
 - 「百合白清2」に比べてどうかはあるんでしょうが、7区の交配も始まってるので鳥取は7区を「白鵬85の3」で行くのでみんなで7区に向かってがんばっていきましょう。
 - 検定成績をみても選抜を問うというより、残さないといけない牛だと思うが、「百合白清2」と比べるというところもあるが、お互いに鳥取県の種雄牛としてこういうことが話し合える状況になったことはとても良いことではないかと思う。これから生まれてくる産子もそれぞれ特徴を持った牛になるのではないかと思う。「白鵬85の3」については

選抜でよろしいか。
→異議なし。

議題2 平成26年度改良基礎雌牛の選定（案）について

→選定案をもとに巡回し、次回に再度協議する。

説明等

- ・選定の考え方は今回から大幅に変更。
- ・「百合白清2」や「白鵬85の3」という種雄牛の誕生を受け、今後の和牛改良の方針を変更するために平成26年12月に県の改良委員会を開催。
- ・その中で現状分析や平成35年度目標に対するシミュレーション結果を考慮した結果、求められる種雄牛は「平茂勝」の血量が少なく、ロース芯面積、脂肪交雑、オレイン酸の一定水準以上の能力を有し、枝肉重量に非常に優れたものとした。
- ・改良基礎雌牛は、「平茂勝」の血縁係数を25%未満とし、枝肉重量能力に非常に優れたものを選抜。
- ・案として27頭を提示、最終的には14頭に絞る。

意見等

- 「百合白清2」、「白鵬85の3」が県内一巡するわけで、その先をどうするかは常に考えておかないといけないと思う。基本的には説明された内容でよいのかなと思う。良かった県の事例を調べて参考にするのも良いと思う。
- 「糸北鶴」が3代祖に入る牛は大きい子が生まれてくる。
→3代祖の「糸北鶴」はピンポイントで選んだわけではない。結果的に条件に合致して引っかかってきたもの。「百合白清2」、「白鵬85の3」の後継牛も将来的には造成しなければならぬが、しかし逆に今しか、こういった牛は造れない。今がチャンスだということで選定した。
- 27頭のうち、中部4頭、東部4頭ということで少ない。中部で問題になっているのが若い人があまりいない。年配の人は5年したらやめられるだろうということで、畜産試験場と県庁が連携して若い人たちがのってくるような夢のある畜産振興を進めていただきたい。兼業でもできる畜産もこれからは大事だと思う。そういうことも含めて畜産振興を進めていただきたい。
- いろいろとお知恵を借りながら行っていきたいと思う。
→貴重な意見だと思う。実際に我々も増やしたいということでやっている。いい牛ができたが増えるかどうかはなかなか難しいところ。我々も認識しているので県庁畜産課と畜産試験場が連携しながら和牛の増頭につながるように、当然のことながら全農さんにも協力していただけたらと思うので。関係団体含めて、みんなでやっということで、いい牛ができたことで、そうった気運も出てきたということなのでぜひやっていきたいと思う。
- 14頭という理解ではなしに過渡期だし、いいものがいれば増えるだろうという理解をしたところ。
- 改良方針に沿って「百合白清2」、「白鵬85の3」の母体を想定して、改良基礎雌牛を

- 選抜しているが、ただ枝肉重量ばかりで、結局使われない牛を造ってもいけないと思う。
- 雄の買い上げ価格を今の相場に合わせてアップしてほしい。
 - 今後は少しアップしたいと考えている。
 - 交配種雄牛はこれらの牛になるのか
 - 案ではあるが、血統的にはこういったもので作ればおもしろいと思う。ただ実際に作ったときに能力がどこまで下がるかが怖いという面もある。
 - 糸新鶴は骨太くて歩留り悪い。
 - その辺は気を付けないと。高森はロース芯もそこそこ大きいし、体型も良い。
 - 交配種雄牛は案の段階。いろいろと考えたいと思うが、ただ、こういった牛も交配種雄牛としてお願いする可能性もある。
 - 非常に協力してもらえない可能性がある。雌が生まれたらどうするとか。
 - 全国的に肥育技術がものすごく伸びている。今の記録は破られる。あぐらをかいてはいけない。2頭の牛は注目の的だが、いつまでも続かない。今は鳥取だけの成績、他県では出ないかもしれない。種の管理をしっかりすること、よそに流れないようにすること。
 - 我々もあぐらをかきことなく、次に向けてやっていきたい。そのためにもゲノム育種価値を活用し、改良の方向を考えていきたい。精液も県外に流出しないよう、契約書を締結しながら行っていきたい。
 - ◎ 今回提示した27頭については、巡回し、その結果14頭に選定されるということ。今回の案についてはよろしいか？
 - 異議なし。

次回開催予定

3月

内容

- 平成27年度直接検定第1群の選定について
- 平成26年度改良基礎雌牛の選定について

ほか